

昭和		年 月 日	略 歴	摘 要			
20	7						
7	8						
9	9	9	8	8	7	7	第一三六師団司令部略歴 通称号 不拔才三七二二〇部隊 軍令陸甲才一〇六号により編成下令 奉天省本溪湖において編成完結 才二九師団が「サイパン」転用の残置員を基幹として在満召集者を以つて編成す。 奉天東陵に移駐。 奉天市内に移動。 奉天(大山会館)において武装解除。 文官屯經由古城子に移動。 東北大学に集結。 主力は奉天作業才三四大隊編入。 奉天発黒河經由「入ソ」
16	15	7	21	19	10	9	
師団長 中将 中山 淳							

0004

昭 20										年 月 日	歩兵第三七一連隊略歴 通称号 不拔才三七二二部隊
至 自											
10	10	9	9	8	8	8	8	7	7		
29	5	28	8	23	18	16	9	31	8	略	歴
<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令。  奉天省本溪湖において編成完結。  歩兵才九〇連隊よりの差出し人員を基幹とし在満応召者をもつて編成。  奉天に移駐、奉天付近の警備。  才一大隊は師団司令部と共に奉天に残り、その他は本溪湖に移動。  在満召集者の召集解除。  主力は奉天、一部は本溪湖においてそれぞれ武装解除。  奉天作業才五三、才三二大隊に編入。  作業才三二大隊黒河經由入「ソ」  作業才五三大隊黒河經由入「ソ」。</p>										隊長 大佐 前田 瑞穂	
										摘	要

0005

昭和20年		略	略
年月日	略		
7月7日	軍令陸甲才一〇六号により編成下令。	<p>通称号 不拔才三七二二二部隊</p> <p>歩兵第三七二連隊略歴</p>	<p>隊長 中佐 重松光雄</p>
7月31日	奉天省遼陽において編成完結。		
8月15日	歩兵才一七八連隊よりの差出人員を基幹として在満応召者をもつて編成。		
8月15日	才二大隊は奉天に移駐。		
8月21日	遼陽、奉天の各駐とん地において武装解除。		
8月24日	全員遼陽に集結、在満召集者召集解除。		
8月下旬	海域に移動。		
9月3日	海域作業才七大隊編入		
9月22日	海域出発入「ソ」		
		摘要	

0006

至自										昭	年 月 日	略 歴
										20		
10	10	9	9	8	8	8	8	8	7	7		
	16	5	16	9	22	22	19	11	9	31	8	通称号 不拔第三七二二三部隊 歩兵第三七三連隊略歴
軍令陸甲第一〇六号により編成下令。 奉天省本溪湖において編成完結。 歩兵第一七七連隊よりの差出人員を基幹として在満応召者をもつて編成 本溪湖出発 奉天着。 在満召集者の召集解除。 奉天において武装解除。 奉天古城子に移動。 虎石台に集結、奉天作業第三三大隊編入。 奉天出発。 黒河經由入「ソ」。 隊長 少佐 河野桂十郎												
												摘要

0007

		昭和		年	
		20	7	7	7
		月	日	日	日
		9	8	8	8
		15	20	10	9
<p>隊長 大尉 井手 古寿</p>		<p>通称号 不拔才三七二一八部隊</p> <p>第一三六師団推進大隊略歴</p> <p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令。 奉天省本溪湖において編成完結。 才一〇七師団および才一一七師団よりの差出人員を基幹とし在満応召者をもつて編成。 本溪湖出發。 煙台に移駐。 煙台において現地応召者部隊解散し、各応召地毎に集団行動。 現役兵煙台において武装解除後煙台炭坑において作業に従事。</p>			
		<p>略歴</p>			
		<p>摘要</p>			

0008

昭							年	月	日	略	歴	摘	要
20													
						7	7						
			10	9	9	8	8						
			5	16	6	22	9			31	8		
<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令。 奉天省海城において編成完結。 在満砲兵部隊からの差出人員を基幹とし在満応召者をもつて編成。 主力は奉天に、才四中隊は遼陽に移動。 奉天および遼陽において武装解除。 奉天北陵に收容され、作業才三二大隊編入。 奉天出発。 黒河經由入「ソ」 才四中隊は歩兵才三七二連隊と同行動。</p>													
<p>隊長 少佐 正木 儀市</p>													

## 野砲兵第一三六連隊略歴

通称号 不拔才三七二一九部隊

0009

至自		昭	年 月 日	略 歴	通称号 不拔才三七二三四部隊 工兵第一三六連隊略歴		
		20					
		7					
9	8 8 8	7	7				
5	15 13 10	9	31	8			
<p>隊長 少佐 佐々木 行 則</p>		<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令。 奉天省本溪湖において編成完結。 才六三師団工兵隊よりの差出人員を基幹として在満応召者をもつて編成。 奉天に移動。 東陵に移動。 渾河に移動。 古城子に移動、部隊解散。</p>					
				摘要			

0010

昭和20年		略	歴	摘要
年	月日			
10	7	7	軍令陸甲オ一〇六号により編成下令。	<p>第一三六師団通信隊略歴</p> <p>通称号 不拔才三七二二五部隊</p>
9	8	8	奉天省本溪湖において編成完結。	
9	8	8	電信才四六連隊およびオ一二六師団通信隊よりの差出人員を基幹とし在満応召者をもつて編成。	
9	8	8	奉天に移動。	
8	8	8	奉天（朝日女学校）において武装解除。	
8	8	8	古城子移動。	
7	9	9	奉天（鐵路学院）に集結。	
7	9	9	奉天作業才三二大隊編入。	
5	16	16	奉天出発。	
5	16	16	黒河経由入「ソ」	
			隊長 大尉 柿 沼 秀 三	

0011



昭和		年月日		略歴		摘要				
10	9	9	8	8	8	7	7	<p>輻重兵第一三六連隊略歴</p> <p>通称号 不拔才三七二二六部隊</p>	<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令。</p> <p>奉天省海城において編成完結。</p> <p>輻重兵才一〇七連隊および才一〇八連隊よりの差出人員を基幹として在満応召者をもつて編成。</p> <p>奉天に移動。</p> <p>奉天に部隊集結、武装解除。</p> <p>古城子に移動。</p> <p>奉天（鐵路学院）集結、奉天作業才三二大隊編入。</p> <p>奉天出発。</p> <p>黒河經由入「ソ」。</p>	<p>隊長 少佐 原田春芳</p>
5	16	8	21	18	10	31	8			

0012

昭 20								年 月 日	第一三六師団兵器勤務隊略歴 通称号 不拔才三七二二七部隊
10	9	9	8	8	8	7	7		
5	16	10	21	18	9	31	8		
隊長 大尉 萩原金蔵								略 歴	軍令陸甲才一〇六号により編成下令。 奉天省本溪湖において編成完結。 奉天に移駐。 奉天において武装解除。 古城子に移動。 奉天(鉄路学院)集結。 奉天作業才三二大隊編入。 奉天出発。 黒河經由入「ソ」。

0013

		昭和20年		年月日		略歴		摘要	
		10	9	9	8	8	8	7	7
		5	16	10	21	18	11	31	8
廠長 中尉 秋葉 博		<p>軍令陸甲才一〇六号により編成下令。            奉天省海城において編成完結。            奉天に移駐。            奉天において武装解除。            古城子に移動。            奉天（铁路学院）に集結。            奉天作業才三二大隊に編入。            奉天出発。            黒河經由入「ソ」。</p>							

0014

至自											昭	年月日	独立混成第七九旅団司令部 略歴
10	9	9	9	8	8	8	8	7	6	4	3		
29	28	27	18	28	20	15	9	上下旬		2	30	16	
<p>黒河経出入「ソ」</p> <p>奉天出発</p> <p>奉天第五三作業大隊に編入</p> <p>主力は奉天に集結</p> <p>安東において武装解除</p> <p>安東浜江兵舎に集結</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>安東に移駐、爾後安東地区の防衛ならびに陣地構築</p> <p>寧安に移駐</p> <p>隊を基幹として編成完結</p> <p>牡丹江（興隆）において第三軍司令部、戦車第一師団司令部、輜重第二五連</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>											概	通称号 満第三八七部隊 丈夫第二五二七四部隊	
											要	摘要	

0015

		至自	至自
		1210	999
		229	3028 24
	黒河経由入「ソ」	奉天出発	一部は奉天第五四作業大隊に編入
旅団長			
少将			
岡部			
通			

0016

至自											昭 20	年 月 日	概 要	摘 要
9	9	9	9	9	8	8	7	7	5	3				
20			16	5	25	15	9	13	9	22	30	16	軍令陸甲第九号により編成下令	
奉天第四四作業大隊に編入													牡丹江市（興隆）において歩兵第四三連隊、山砲兵第一一連隊第六〇兵站警備隊を基幹として編成完結	
奉天到着													現地応召者約五〇〇名入隊	
奉天に向かい出発													移駐のため興隆出発	
安東に集結													安東省鳳凰城着、爾後同地において陣地構築	
鳳凰城において武装解除（現地応召者召集解除）													日「ソ」開戦	
停戦														

独立歩兵第五七八大隊 略歴

通称号

満第六二部隊  
丈夫第二五二七五部隊

0017

10 9

14 22

奉天出發  
黒河經由入「ソ」

隊長  
少佐  
神野  
福次郎

十二の五

0018

至自											昭	年 月 日	独立歩兵第五七九大隊 略歴
10	9	9	9	9	8	7	6	4	4	3	1		
14	22	20	19	12	15	上下旬		5	4	30	16		
隊	長	大尉	島田重隆										
黒河經由入「ソ」 奉天出発 奉天第四四作業大隊に編入 奉天北陵着 湯山城において武装解除 停戦 安東省安東県湯山城に移駐 牡丹江省石頭着 興隆出発 六中隊を基幹として編成完結 牡丹江市（興隆）において歩兵第四四連隊機動歩兵第一連隊、兵站勤務第四 軍令陸甲第九号により編成下令											概	要	通称号 満第二四九部隊 丈夫第二五二七六部隊
													摘要

0019



										昭 20	年 月 日	独立歩兵第五八〇大隊 略歴	
10	9	9	9	8	7	5	4	4	3	1			
30	23	21	20	下旬	7	22	7	6	30	16			
<p>通称号 満第八〇五部隊 丈夫第二五二七七部隊</p>												<p>概要</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令 牡丹江省樺林において第一七野戦兵器廠第一七野戦自動車廠第二五野戦貨物廠を基幹として編成完結 移駐のため樺林出発 牡丹江省寧安県石頭着、爾後同地付近の警備 現地召集者約四〇〇名入隊 安東に移駐 安東において武装解除（現地召集者召集解除） 奉天に集結し奉天收容所に入所 奉天第四五作業大隊に編入 奉天出発 黒河経由入「ソ」</p>	<p>要</p>
<p>隊長 大尉 佐々木 勝吾</p>													

0020

昭 20										年 月 日	独立歩兵第五八一大隊 略歴		
至自	至自	至自										概	要
1010	9 9	9 9	9	8	7	7	4	3	1				
3019	27 23	23 21	19	22	10	7	6	30	16				
隊	黒河経由入「ソ」	奉天出発	奉天第四五、第五三、作業大隊に編入	安東出発、奉天北陵収容所着	安東において武装解除	安東に到着	部隊命令により石頭出発	牡丹江省石頭に移動、鏡泊湖付近の障地構築作業	完結	牡丹江省樺林において歩兵第四〇連隊、第六〇兵站警備隊を基幹として編成	軍令陸甲第九号により編成下令	通称号 満第一六六部隊 丈夫第二五二七八部隊	
長													
大尉													
中根忠雄													

0021

昭和20年										
10	9	9	9	9	8	8	8	6	3	1
29	28	26	下旬	28	25	15	9	下旬	30	16
独立歩兵第五八二大隊 略歴										
通称号 満第九部隊 丈夫第二五二七九部隊										
概要										
<p>軍令陸甲第九号により編成下令</p> <p>牡丹江省寧安において歩兵第七〇連隊、第三軍輜重教育隊戦車第三五連隊等を基幹として編成完結</p> <p>牡丹江省寧安発、安東着</p> <p>日「ソ」開戦、戦闘せず</p> <p>停戦</p> <p>安東において武装解除</p> <p>安東発</p> <p>奉天北陵に集結</p> <p>奉天第五三、第五四作業大隊に編入</p> <p>奉天出發</p> <p>黒河経由入「ソ」</p>										
要										
摘要										
隊長 大尉 森村 智										

十四の夕

0022



	10
	29
	黒河経由入「ソ」 隊 長 大尉 内藤 仁

至自											昭 20	年 月 日	独立混成第七九旅団砲兵隊 略歴
11	9	8	8	8	8	8	7	5	4	3	1		
5	27	25	24	20	15	9	15	22	15	30	16	軍令陸甲第九号により編成下令 牡丹江市（興隆）において山砲第一一連、第一五連、野砲兵第一二四連隊を 基幹として編成完結 牡丹江省石頭に移動し鏡泊湖地区陣地構築に従事 現地応召約二〇〇名入隊 安東市臂截溝に移動、同地付近の陣地構築 日「ソ」開戦 停戦（在満応召者召集解除） 安東に集結 安東に、して武装解除 奉天北陵に集結 奉天第五作業大隊に編入	通称号 満第八八七部隊 丈夫第二五二八〇部隊
												摘 要	

0025

十五の内

		464の2	
		11	11
		20	7
		満州里 經由入「ソ」	奉天 出発
		隊	
		長	
		少佐	
		松尾	
		実	

0026

												昭 20	年 月 日	独立混成第七九旅団工兵隊
10	9	9	9	8	8	8	8	7	5	4	3	1		
14	22	20	19	28	25	15	9	7	22	5	30	16		通称号 満第二三五部隊 丈夫第二五二八一部隊
隊長 大尉 堺 省一 黒河經由入「ソ」 奉天出発 奉天第四四作業大隊に編入 奉天に集結 安東において武装解除 現地応召者召集解除 停戦 日「ソ」開戦 安東に移駐、同地付近の警備ならびに陣地構築 現地応召、入隊者約二〇〇名 牡丹江省石頭に移駐 牡丹江省石頭に移駐 軍令陸甲第九号により編成下令												概	要	
													摘要	

0027



昭和20年											年月日	概要	摘要
9	9	9	9	8	8	8	7	7	4	3			
22	20	19	18	30	15	9	10	5	4	30	16		
<p>奉天出発</p> <p>奉天第四作業大隊に編入</p> <p>蘇家屯より行軍にて奉天着</p> <p>奉天に集結のため安東出発、同日蘇家屯下車</p> <p>安東において武装解除（現地応召者召集解除）</p> <p>停戦</p> <p>日ソ開戦</p> <p>安東着、同地付近の警備</p> <p>安東警備のため寧安県境通過</p> <p>牡丹省寧安に移駐</p> <p>召者約一〇〇名をもつて編成完結</p> <p>牡丹江市（興隆）において電信第七、第四、第一七連隊を基幹とし現地応</p> <p>軍令陸甲第九号により編成下令</p>													

独立混成第七九旅団通信隊 略歴

通称号 満第五七八部隊  
丈夫第二五二八二部隊

昭

20

概

要

摘  
要

十六の内

	10
	14
隊 長 大尉 笠井 清	黒河経由入「ソ」

0029

至自至自至自											昭 20		年 月 日	独立混成第七九旅団輜重隊 略歴
1010109109 9 8 8 8 7 4 3 1														
31 8 8 25 5 24 18 20 15 9 2 6 30 16														
隊 長 少 佐 松 永 清 蔵	黒河經由入「ソ」										軍令陸甲第九号により編成下令		概 要	通称号 満第六八九部隊 丈夫第二五二八三部隊
	奉天出発										牡丹江市（興隆）において第三軍司令部、独立自動車第七〇大隊を基幹として編成完結			
奉天第五六、第四八作業大隊に編入										移駐のため興隆出発、同日寧安県石頭着、同日より同地付近の警備		摘 要		
奉天に集結										石頭出発、安東省安東に移駐				
安東中学校において武装解除										日「ソ」開戦				
停戦														

0030

昭和20年		略	歴	摘要
月	日			
7	7			
7	8			
8	8			
8	8			
8	8			
8	9			
8	15			
8	19			
8	20			
8	30			
9	10			
9	13			
10	2			

独立混成第一三〇旅団司令部略歴

通称号 奮闘才三七五〇二部隊

軍令陸甲才一〇六号により編成下令。  
撫順において編成完結。  
在満部隊からの差出人員を基幹として在満応召者をもつて編成。  
奉天北陵に移駐。  
停戦。  
奉天北陵地区において武装解除。  
道義屯に移動。  
北陵東北大学に收容。  
奉天作業才一三大隊（長 少佐 杉山 正久）に編入。  
北陵出発。  
黒河經由入「ソ」。

旅団長 少将 桑田 貞三

0031